

今週の為替相場見通し(2018年3月19日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		105.61 ~ 107.30	105.98	105.00 ~ 107.50
ユーロ	(ドル)		1.2260 ~ 1.2413	1.2290	1.2200 ~ 1.2450
(1ユーロ=)	(円)		130.09 ~ 132.43	130.32	129.00 ~ 132.50
英ポンド	(ドル)		1.3842 ~ 1.3996	1.3943	1.3800 ~ 1.4100
(1英ポンド=)	(円)	*	147.25 ~ 149.38	147.80	146.50 ~ 149.50
豪ドル	(ドル)		0.7710 ~ 0.7916	0.7713	0.7550 ~ 0.7900
(1豪ドル=)	(円)	*	81.73 ~ 84.53	81.78	80.00 ~ 83.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 緒方 大輔

(1)今週の予想レンジ: 105.00 ~ 107.50 円

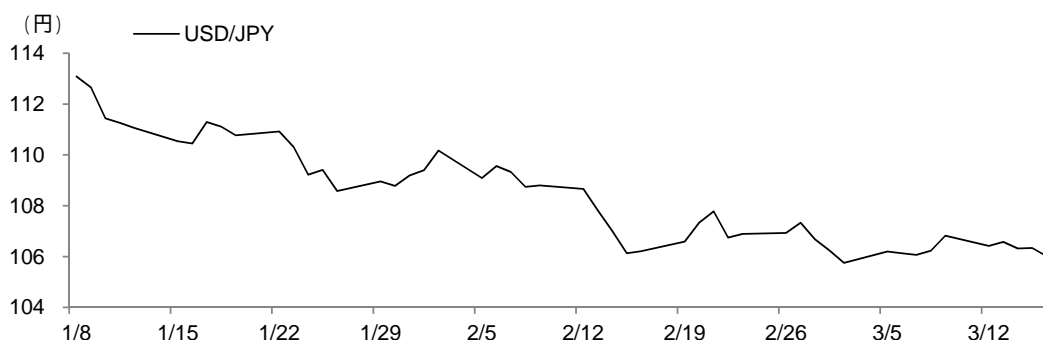
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場はやや下落する展開となった。週初 12 日に106 円台半ばでオープンしたドル/円は 107 円手前まで上昇したが、森友文書問題について与党幹部が財務省による書き換えを認めると、政局流動化への懸念から106 円台前半まで値を下げた。13 日は日経平均株価の上昇に連れ 106 円台後半まで反発。米 2 月消費者物価指数(CPI)発表直後に急上昇し一時高値となる 107.30 円をつけたが、トランプ米大統領がティラーソン米務長官を解任との報に政策の先行き不透明感が強まり106 円台後半まで反落。さらにゴールドスタイン米務次官も解任されたほか、ホワイトハウスは今週さらに主要な人員交代を想定しているとの報道を受け 106 円台半ばまで続落。14 日は共和党の地盤と言われていたペンシルベニア州における連邦下院補欠選で民主党候補と接戦になったことを背景に軟調な値動きが継続。その後、イタリアのユーロ懐疑派政党の「北部同盟」党首が極右政党である「五つ星運動」との連立を示唆したことや、イギリスがロシア外交官 23 人に退去命令を出し資産凍結も示唆するとリスクオフ地合いとなり、ドル/円はじり安の展開。さらに米 2 月小売売上高が市場予想に反し 3 か月連続の減少となったことで 106 円近辺まで値を下げた。15 日は一時105円台後半まで下落したが、FOMC を来週に控えドルのショートポジションを解消する動きが見られたことなどから 106 円台前半まで回復。16日の東京時間は、日経平均株価の下落に連れ安となり、週安値の105.61円まで下落。その後海外時間では米10年債利回りの上昇に連れ反発し、105.98円で越週した。

今週はレンジ推移を予想。19~20日にG20財務相・中央銀行総裁会合が開かれ、20~21日にかけてはFOMCを控えるなど大事な週となる。ドルの買い戻し機運も短期的に高まるものの、米保護主義懸念の継続、米政権人事懸念、英露政治懸念に加え、森友問題で本邦政治リスクが意識される状況下、クロス円での上値の重さも意識され、引き続きドル/円はレンジ内での推移が継続するだろう。105円半ばでは底堅さを見せているものの、引き続き株などのリスク資産動向が警戒される中、105円を死守できるか注目となる。20~21日かけてのFOMCでは、追加利上げ自体は織り込み済みであり、年内利上げ想定が引き上げられるかが焦点となり、その後のリスク資産の動きにも注目していきたい。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/12~3/16)の値動き: 安値 105.61 円 高値 107.30 円 終値 105.98 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上